

金鳥居

富士山をその柱の間に見ることができる金鳥居は、富士山駅からわずか数分の場所に位置しています。これは、外の俗界と富士山山頂を中心とする霊界から切り離す境界を示す伝統的な神社の鳥居です。また、この鳥居は、江戸から来た富士講信者が富士山の山頂に行くまでに通った 8 基の鳥居の中の 1 基目だったため、「一の鳥居」としても知られていました。

境界の先

金鳥居は 1788 年に富士講信者によって初めて建てられました。木製の柱が銅板で包まれていたため、「金鳥居」と呼ばれました。最初に建てられた鳥居は 2 回暴風で倒れ、1831 年と 1878 年に再建されました。再建された鳥居は、戦争中の 1942 年に材料が接収されて取り壊されるまで立ち続けました。現在の金鳥居は 1957 年に完成したものです。現在のものは、古い鳥居があったと歴史学者が考えている位置よりも 30 メートルほど富士山に近く、銅張りのコンクリート製になっています。

鳥居の先の道路沿いには、御師と呼ばれた富士講信仰の指導者がかつて運営していた宿坊（御師住宅）が数十軒と建ち並んでいました。富士講の講はそれぞれ、朝に富士山の山頂へと出発する前夜に巡礼者が宿泊する御師住宅とのつながりを持っていました。今でも 5 つの御師住宅が来訪者を受け入れています。